

ながせひでき 永瀬秀樹の歩く眼

第14号 歴史文化

わがまちの歴史 川口市史について

私たちが住む川口の歴史を、私たちはどれくらい知っているのでしょうか。58万人大都市とはいえ、入れ替わりが激しく、「川口都民」も多い川口市民。たたらも、キューポラも、意味が分からない人が、ほとんどではないでしょうか。川口の歴史観をどう育てるか。永瀬秀樹の歴史文化政策です。

まちの根にあるものは「歴史」であり、それを誇りにする市民です。川口市史が発刊されて25年。その間には川口・鳩ヶ谷の合併もあり、発掘調査から新たな新事実もわかってきています。川口市制百周年に向け、今また新たに、「川口市史の編纂」を提案致しました。



川口市議会で、私は4度目の一般質問をさせていただきました。今号は6回シリーズの第5回です。

永瀬秀樹質問の狙い

●原始から現代にいたるまで、先人たちが営々と築いてきたまちの歴史を明らかにし、誇りある郷土を後世に伝えることは市の責務です。

「川口市史」は、昭和48年、市制施行40周年記念事業として始められました。完成は昭和63年。「川口市史通史編」上下二巻の発刊をもって事業を終了しました。

●市史は、「川口市史編纂委員会」のメンバーと市民の皆様のご協力と、200人余の所蔵者の方から提供された4万点もの貴重な史料をもとにまとめられました。15年の歳月をかけて執筆されたこの労作は、もっと多くの市民の皆様親しんでいただく価値があると考えます。



御成り道祭り

1 川口市史の 市民認知度について

永瀬秀樹の質問概要

●市民への周知不足があると思われる。知らないものは買えません。

現在の市民への頒布状況と周知方法をお聞きするとともに、より多くの市民に市史の内容を知っていただけるよう、他市の事例も参考にし、少なくとも書名、主な内容、大きさ、価格、在庫の有無を明示するなど、ホームページで詳しく紹介するよう、**改定を提案しました。**

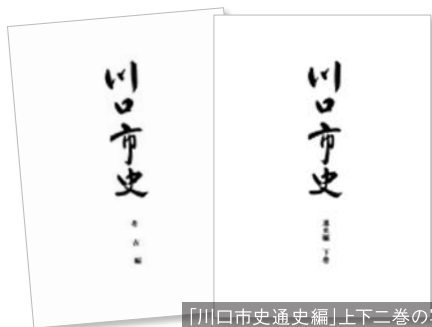
川口市の答弁

●川口市史の市民への頒布については、編纂が終了した昭和63年に39,000冊を刊行しました。これまで30,348冊を頒布しており、過去3年間の頒布状況は、平成22年度12冊、

23年度8冊、24年度9冊です。

市民への周知については、刊行当初は、ポスター、チラシ、市広報紙のほか、各種新聞への掲載など積極的にPRを行いました。現在は、ホームページやポスターで周知を図っています。

●今回の永瀬議員の提案を踏まえ、ホームページに本の内容や項目などを分かりやすく掲載するなどの改訂を行って参ります。**との答弁を頂きました。**



「川口市史通史編」上下二巻の写真

2 今後の川口市史について

永瀬秀樹の質問概要

●2013年(平成25年)、本市は市制施行80周年を迎えました。市史編纂事業終了から25年、この間、時代は昭和から平成へと移り、冷戦終結、9.11アメリカ同時多発テロ、リーマンショック、世界大不況、バブルの崩壊から失われた20年、3.11東日本大震災など、日本も世界もまさに激動の25年間でした。

●川口市でも、平成23年には旧鳩ヶ谷市と合併、人口も42万2,020人から58万7,766人と1.4倍に増大しました。市史発刊当時、約4万点だった史料も、その後の収集で約8万7千点に増え、開発行為に伴う遺跡、遺構の発掘で多くの新たな事実が発見、判明しています。

●一昨年は、合併を記念して、新市の一体感の醸成と郷土愛を育むべく、川口宿と鳩ヶ谷宿を結ぶ日光御成道の歴史的検証も実施。往時の徳川将軍の社参行列を再現して開催された「日光御成道まつり」には18万人もの観衆が集まり、歴史的・観光的意義のある祭りとして根付いたことなど、郷土川口の歴史に対する市民の関心は高いと考えます。

●川口市史刊行から26年を経た今、歴史は年々新たに作られ、今までの川口市史では不十分になりつつあります。



◎その後の社会経済情勢の変化による川口市の変貌、合併による地域の拡大を受け、改めて広い視野から新たな川口市の歴史を明らかにすること。

◎そして、市史編纂事業終了後の様々な学術研究の成果も反映させること。

◎また新たな市史編纂事業そのものを通して、市民の地域に対する理解を深め、市民自らが行うまちづくりに役立てること。

●これらを狙いとし、何らかの方法で、改めて川口市史の編纂に取り組むべき時期と考えます。

1. 史料等を活用した

市の歴史に関する刊行物について

●他市を見ても、市史編纂事業の成果を、市民に活用していただくため講座等の開催や、市史刊行物の刊行など、多くの自治体では、様々な取り組みがなされています。

●川口市でも、文化財課の古文書係で貴重な史料や古文書を多数保管しています。これらを有効に活用した市の歴史に関する刊行物の発行予定と内容についてお聞きしました。

2. 新たな市史編纂事業について

●川口市史編纂により、ベースはできています。しかしながら、時代の変化も早く、新史料の発見や古文書解読の進展などによる新事実の判明など、新たな市史の編纂には膨大な時間がかかると予想されます。

●古文書係で保管している貴重な史料等を死蔵することなく、前回の市史編纂事業で培ったノウハウを活かして、市制施行100周年に向けて、記念事業としての推進を図ること。

●市史など歴史を紹介する刊行物は、専門的な内容です。より多くの市民に、川口の歴史や文化財などを知ってもらうためには、気軽に読める分かりやすい解説のガイドブックを併せて発行すること。**この2つを提案しました。**



川口市の答弁

●寄贈・寄託などにより保管している史料を活用し、市民に川口市の歴史を知っていただくため、内容を編纂した「叢書(そうしょ)」を平成27年度から順次刊行する予定です。

●なお、最初に発刊する「叢書(そうしょ)」は、地域に関わりが深い文書「御用留(ごようどめ)」で、その内容は、江戸時代から明治初期までの代官所から村への通達、村からの訴状を記録したものの。当時の川口市内の村々の様子を知ることができる史料です。

●今回永瀬議員から提案頂いた、「市制施行100周年」に向けた新たな市史編纂事業は、全庁的に取り組む必要があり、事業の進め方や方法などについて関係部局と協議を図って参ります。

●また、文化財や歴史について、市民にわかりやすく、理解いただけるよう議員ご提案の小冊子についても研究してまいります。

との答弁を引き出しました。

永瀬秀樹はこれからも、川口市が快適な環境をつくり、川口市民が生きがいを持ち、安全で健康で幸せに暮らせるために、全力で活動していきます。

あなたのご意見をお聞かせください。
川口市議会議員 永瀬 秀樹
〒332-0012 川口市本町1-6-10
Tel. 048-223-6050
Fax. 048-223-6170